



この本を使用される先生方へ

「作文が好きですか。好きじゃないですか。」そう質問すると、好きだという学生はほんの少し、多くの学生は「好きじゃない」に手を挙げます。実は、私たちがこの教科書の試作版を3年間使った授業でいつも同じ光景が見られました。ところが、授業の最後に教科書についてアンケートをすると、ほとんどの学生が「作文が好きになりました。」と答えてくれました。この授業では静かに作文を書く時間より、学生同士でわいわいがやがや話す時間のほうが多くなります。この話題についてもっと話したい、そんな学生たちが夢中になって自分の言いたいことを相手に話しています。

「協働」や「アクティブラーニング」など日本語教育でも学習者主体の授業が求められるようになっていきます。とはいえ、実際の授業ではそう簡単には学生たちの積極的な姿は見られません。特に作文では……。いいえ、教科書次第で、授業方法次第で学生も授業も先生も変われます。

以下のリストにどのぐらい当てはまりますか？ もし半分以上当てはまるなら、この教科書を使ってください。作文の授業を楽しんでほしいと願っています。

学生を変えたい！

- ☐ 作文いやだな～と暗い顔をしている学生に「作文、楽しいかも」と思わせたい。
- ☐ 書くことは考えること、考えることは意外と楽しいこと、と思ってほしい。

授業活動を変えたい！

- ☐ どんより、またはし～んとしがちな作文の授業を何とかしたい。
- ☐ せっかくのクラス授業なので、個人作業ではなく協働して学んでほしい。
- ☐ 書き上げた作文を学生同士で共有する教室活動ってどうすればいいの？

授業内容を変えたい！

- ☐ 何を目標として、何のために作文を書かせるのか、よくわからない。その指針がほしい。
- ☐ 学生の作文の何をどうやって評価すればいいの？
- ☐ 毎度、作文の題に苦慮する。書く力を有機的に成長させるステップがあるんじゃないか。

教え方を変えたい！

- ☐ 何度読んでも何が言いたいのかよくわからず、頭痛がする作文添削から解放されたい。
- ☐ 苦勞して添削しても、学生はたいして読みもせずカバンの中に入れてしまう。
何かいい活用方法が知りたい。
- ☐ 学生が書き上げた作文を書いたままで終わらせるのはもったいない。

●有意義な作文授業をつくるヒント

1 学習者の協働を促す

「作文は一人で黙々と書くもの」という学習者の（教師も？）考えを、「作文はまずおしゃべりから始まる」という方向に変えてもらうことが出発点です。そのためには学習者同士が気楽に話せる関係づくりが大切です。初回の授業でネームカードを作って覚えるまでしばらく使う、お互いの顔を見ながら話せる机や椅子の配置にする、ペア／グループが固定化しないように配慮する等の工夫をしてみてください（するとしないとでは大違いです）。と同時に、自己開示の速度や深度には個人差がありますから、強要しないことも重要です。

2 時間配分

学習者が気楽に、自由に「おしゃべり」している姿は一見無駄な時間のように見えるかもしれませんが、実はこれが最も重要な時間です。

「おしゃべり」が作文のアイディアになるまでには時間がかかります。学習者は「あるテーマについて考えながら日本語で表現し、相手の話を聞いてさらに意見を付け加える。その間にも他の言いたいことが生まれ、または他者から提示され、それについてさらに考え日本語で表現する」という複雑な作業を行っています。これが十分に行えれば、そのあとに続く「作文」が豊かなものになります。ですから、この時間を授業の中で十分に確保してください。

下の図は時間配分のイメージです。

作文フィードバック	アイディアさがし (おしゃべり+アウトライン)	作文ルール	作文を書く※
今日の活動説明			次回の予告・宿題確認

※作文ルールに時間がかかるときは「作文を書く」は宿題にします。

3 文法の授業にしない

教科書にある「作文ルール」には接続語など文法の説明も入っています。これらの「作文ルール」は各課のアウトライン（構成）をわかりやすくしたり、作文を書きやすくしたりするためにあります。ですから、「作文ルール」は文法の練習問題で終わらせず、自分が書いた作文のどこに使っているか（またはいないか）を学習者自身に点検させてください。マーカーで線を引くなど、具体的な活動が有効です。

自分が言いたいことはこのような文法を使うとよりよく表現できると実感できる使い方をすることが重要です。

4 作文添削のヒント

別冊の「作文ノート」にある作文チェック記号（別冊 p.2）を使って、学習者に「考えさせる」ことをお勧めします。さらに、共通して間違いの多いものを抜き出してクイズを作るのも効果的です。

作文評価は「教師が採点したものを渡す」だけでもいいですし、「空欄で返して学習者が自己採点し、そのあとで教師の採点を渡してその違いを考える」という方法も可能です。

どのような方法であれ、教師が懸命に赤ペン添削したものを学習者が一瞥して終わりというむなしい作業はやめたいものです。

添削の方法については凡人社のウェブサイトで配信する「教師用引き」の「作文フィードバックのしかた」も参考にしてください。

【凡人社ウェブサイト内特設ページ】（2020 年現在）

http://www.bonjinsha.com/wp/chukyu_sakubun



5 作文音読の効果

各課のモデル作文や学生の書いた作文は必ずクラスで音読するようにしてください。モデル作文を音読することは、効果的なアウトラインを意識することにつながります。また、自分の作文を他の人に読み聞かせることは、自分の使った表現や構成の確認に役立ちます。漢字圏の人は、読み方や意味があいまいな漢字語彙を音読によって確かめられますし、漢字語彙が難しいと思っている非漢字圏の人は、テキストのモデル作文やお互いの作文を音読することによって、語彙や文法などの表現を学び合えます。漢字圏、非漢字圏の人がペアを組むことで相互の弱点を補完する動きも生まれます。